

大きなあれ！は自分へのメッセージ！



1年生、生活科の定番は、アサガオの栽培！
5月初旬にまいた種が、子供達の毎朝の水やりを栄養に、芽を出し、双葉を出し、本葉を出し……。6月の終わりにはきれいな花を咲かせるまでに成長し、今は、支柱に登り切るまでになりました。



【5月初旬の様子】

育つ訳はありませんよね。子供達は、毎朝、様子を見に来ては水をあげていました。中には、「大きなあれ～、大きなあれ～」と言って水をかけている微笑ましい姿や、友だちのアサガオの育ち具合を心配している子も……。その純粋な気持ちに心が洗われる毎日でした。

さて、アサガオを育てる意味はどこにあるのでしょうか。生活科の目標も勿論あるでしょうが、

- よく気がつく子(アサガオは喉が渴いていない?)
- 自ら動く子(植物は動けない)

を育てるには価値ある活動ではとも思っています。他にも栽培活動が盛んな西部小。植物の成長を願いながら、実はそのことで自分自身が成長しているのでしょうか(*^o^*)。



【7月初旬の様子】

すっかり大きくなったアサガオです。夏休み、種取もまた楽しみの一つになるでしょう。

さて、ここまで育ったアサガオですが、何もお世話せずにここまで

たった一つの「命」

7月の全校朝会のテーマは、かけがえのない命。残念ながら交通事故、水難事故、不審者など、命の危機にさらされることが増えた昨今。この時期だなぁと思い、次の話を。

鉄道会社に勤めている人が出会った本当の話です。ある日、一日の仕事が終わり、帰ろうとした時、「線路に犬が横たわっています。まだ生きています」と無線が入りました。急いで線路の上を進んでいると、うずくまっている子犬を発見しました。持っていたタオルでくるみ、動物病院へ直行。救急処置をしてもらい家に連れて帰ることにしました。

ポスターを作り、子犬の飼い主を探し当てることができました。「ああ、良かった～」と思いましたが、「子犬」と別れる辛い気持ちも強くなってきました。次の日、飼い主が、私の家にやってきました。「こんにちわ。子犬を助けていただき、本当にありがとうございました。」その声を聞き、顔を見た瞬間、信じられないことが起こりました。それまで、立ち上がることもできなかった子犬が、フラフラと立ち上がり「ワン」と力強く吠えたのです。まるで「僕はここにいるよ。会いたかったよ。」と言っているかのようでした。立ち上がる元気もないはずなのに。私はその子犬の姿に感動し涙が止まらず「よくやった。もう良い、もう良い」と言いながら、足を何度も撫でてやりました。話が済み、子犬と別れる時がやってきました。子犬は、ご主人様に抱かれたまま、見えなくなるまで私をずっと見つめていました。「助けてくれてありがとう。このご恩は、一生忘れないよ」と言っているのがよく分かりました。その後、子犬は奇跡的に回復し元気になったというお話です。

この話は「人も動物も、命は、たった一つしかないんだよ。」「大切にしようね」ということを教えてくれます。

《ホッと一息》～夏と言えば～ 6年生作

- 夏休み 学力上げる 大チャンス
- 青い空 輝く海に 映り込む
- かぶと虫 樹液をかけて 争奪戦
- 青空に 入道雲の 姿あり
- せんぷうき シャベル声ガタガタだ

全部紹介できなくて残念ですが、なかなかの力作揃いでした。やるね、流石6年生！

